

【静岡県森林整備農山漁村整備交付金事業】

指標① 治山事業：山地災害の安全対策を講じた地区数

(1) 指標の考え方

- ・近年の集中豪雨の頻発化傾向に対応するため、山地災害の危険度が高い山地災害危険地区において、静岡県社会資本重点整備計画に基づき、安全対策を講じた地区数の割合の向上を指標として設定した。

(2) 指標の対象

山地災害の安全対策を講じる必要がある929箇所を対象としている。

(3) 指標の達成状況

平成29年度末の最終実績値は100%であった。

農山漁村地域整備交付金事業では、このうち48箇所で行った事業を実施し、安全対策を講じた地区数の割合の向上に貢献した。[76箇所/76箇所]

計画の成果目標	定量的指標			
	H27当初	H29末最終目標	H29末最終実績	H29末達成率
荒廃森林に溪間工・山腹工・森林整備等を行い、森林の公益的機能を高め、持続し、山地災害の未然防止と下流漁場への土砂流出を緩和	853箇所 (853/929)	929箇所 (929/929)	929箇所 (929/929)	100%

指標② 森林整備事業（林道）：林道から200m以内の森林面積

（1）指標の考え方

県内の民有林森林面積約40万haのうち55%を占めるスギやヒノキの人工林は、その85%が41年生以上に達し、木材として利用可能な時期を迎えている。

この資源を効率的に搬出するには、林道や森林作業道などの路網が必要であり、森林整備の基盤としての路網整備を進め、収益を確保しつつ行う利用間伐を促進し、人工林の適正な整備を推進する。

そのため、効率的な森林施業が可能とされる「林道等から200m以内の森林面積」を指標として設定した。

（2）指標の対象

森林整備に継続的に利用される、幅員3.0m以上の林道及び森林作業道を対象としている。

（3）指標の達成状況

平成29年度末の最終実績値は21.4万haであり、目標値20.0万haを達成した。

計画の成果目標	定量的指標			
	H27当初現況	H29末最終目標	H29末最終実績	H29末達成率
林道等から200m以内の森林面積(累計)	19.2万ha (19.2/20.0)	20.0万ha (20.0/20.0)	21.4万ha (21.4/20.0)	107.0%

指標③ 森林整備事業（造林）：年間森林整備面積

（1）指標の考え方

- ・ 県民の安全で豊かな生活を維持・発展させるためには、県土の64%に広がり、水源涵養や土砂災害防止機能等の森林の有する多面的機能の維持増進を図る必要がある。そのため、森林の多面的機能の維持増進とともに、森林吸収源の確保にも寄与する間伐等の年間森林整備面積を指標として設定した。

（2）指標の対象

造林や間伐等の年間に実施された森林整備面積を対象としている。

（3）指標の達成状況

平成29年度末の最終実績値は10,606haであり、目標値10,000haを達成した。

計画の成果目標	定量的指標			
	H27当初現況	H29末最終目標	H29末最終実績	H29末達成率
年間森林整備面積	9,500ha (9,500/10,000)	10,000ha (10,000/10,000)	10,606ha (10,606/10,000)	106.1%

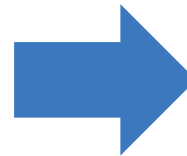
(4) 指標に関連する実施事例

番号-12番号 (溪間工)

漁場保全の森づくり事業

(事業箇所：榛原郡川根本町壱町河内)

●着手前



(参考) 平成22年小山町での土砂流出事例



●対策後



(4) 指標に関連する実施事例

番号-12番号 (森林整備事業)

育成林整備事業

(林道 青野八木山線)

(参考) 木材の搬出



● 着手前



● 対策後



(5) 指標に関連する実施事例

番号-12番号 (森林整備事業)

花粉発生源対策促進事業

(事業箇所：富士宮市上稲子)

●高性能林業機械による一貫作業



●着手前



●対策後



(6) 今後の方針

- ・山地災害の防止を図るとともに下流漁場への土砂流入を緩和するため、引続き治山事業を推進する。
- ・同時に路網整備を講じ効率的かつ安定的な林業経営基盤づくりを推進し、継続的な森林整備を促進する。